

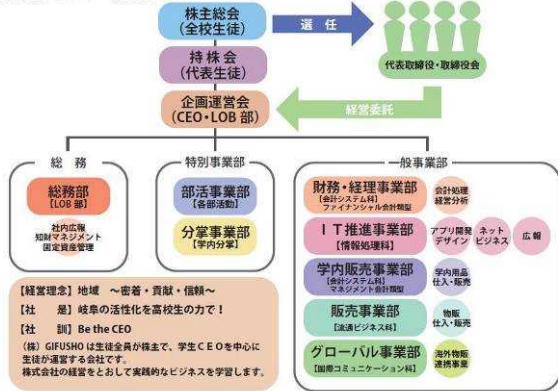
学校番号	3展商01	平成28年度 実践事例報告書様式6	
学校名	岐阜県立岐阜商業高等学校	担当教員/ 教授名	後藤有喜
学校情報	所在地：岐阜県岐阜市則武新屋敷1816-6 TEL：058-231-6161、FAX：058-233-3195、URL：http://www.kengisho.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成(学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法(○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他()

タイトル 目的・目標要約	地元企業・専門高校と連携した商品開発をとおして知的財産権の理解と創造性の育成
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門高校と連携した取組・交流を深め、商品・デザイン開発の研究を深める。 ・株式会社G I F U S H Oの校内会社組織の中に知的財産部門を置き、継続可能な知的財産活動を行える体制を整える。 ・企業と協働によるソフトウェア・デザイン開発をとおして知的財産の創造、保護、活用について研究を深めるとともに、指導できる教員を育成する。 ・遠隔地間におけるアイデア創出の各種方法を模索する。 <p>(取組の背景)</p> <p>昨年度本校では「株式会社G I F U S H O」を設立した。校内に7つの事業部を設置して学校全体での会社運営が始まった。知的財産管理に関しては総務部が担うこととなり、これまでの活動が引き継がれ、地元企業・専門高校などとも連携した商品開発やCSRとして新たな取組も始まっている。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>①流通ビジネス科3年生4クラスの「商品開発」の授業で地元老舗せんべい店と連携した商品開発講座をアイデア創出にも重点を置いて実施している。また、ルイヴィトンジャパンから講師を招聘して知的財産講座を実施した。</p> <p>②今年度は部活動での応募も併せて全校で3つのコンテストに応募した。一昨年度より知財人材の育成を目指し、商業科目の授業内で実施している。</p> <p>③スマートフォンアプリの共同開発を行っている企業と知財学習会を実施した。</p> <p>④デザイナーを講師として招聘し、パッケージのデザインなどについて学んだ。</p> <p>⑤韓国ソニイルeビジネス高校と連携して相互に仕入販売を実施、商品の選定協議、共同アイデア創造授業を行い商品に貼付するロゴマークを作成した。</p>
成果	<p>①授業の中で実践的な課題解決学習に取り組むことができた。また、知財の重要性やモラル、意匠・商標についても学習し、生徒の意欲を高めることができた。</p> <p>②充実した事前学習を行うことができるようになり、関商工会議所青年部連合会主催「ビジネスプランコンテスト」にて「長良川鮎サイダー」のアイデアを考えた生徒が初の大賞を受賞することができ、商品化が決定した。</p> <p>③実際の企業で行われている知的財産の保護・活用について学習ができた。</p> <p>④部活動で行っている商品開発と併せて総合的に行ったことで、企業で実際に行われている知的財産の保護についても触れることができた。</p> <p>⑤授業をとおして知的財産に関する意識や発想の違いを感じる事ができた。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

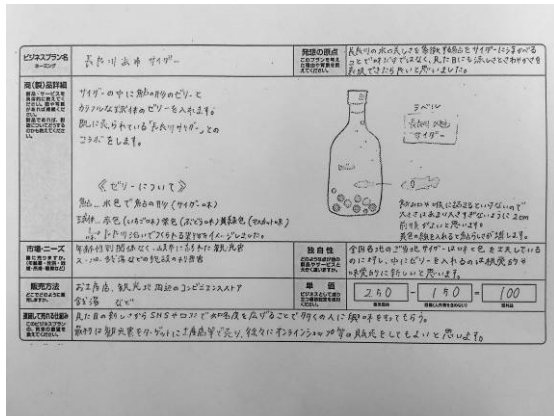
【株式会社 GIFUSHO 組織図】



株式会社G I F U S H O の組織図



開発商品の試作品



大賞受賞のビジネスプランシート



販売商品に貼付するロゴマーク

デザインについて学び、作品制作を行う「デザイン工房」（部活動での取組）について

外部からの依頼を受けてパッケージデザインやポスター・ポップ広告などを制作している。今年度より、株式会社G I F U S H O から制作費をいただき、作品を提供しているため、高いデザイン力を求められるとともに、知的財産権について意識していかなければならない。そのため地元企業からデザイナーを講師としてとして招聘して実施している。また、クライアントの企業とも知的財産に関する部分を含めた覚書を作成し、交わすことも多くなり、生徒達も実務的な学習ができています。この中から今後更に発展していく取組を2つ特記したい。1つは、岐阜商工会議所の依頼を受けて地域の活性化の一環として名物の鮎菓子を広めるために実施した「鮎菓子たべよ一博」へのポスター・ポップ広告の提供である。6社のデザインを手がけ、この内の2社と来年度に向け商品開発で連携することが決まった。2つ目は、県が中心となって取り組んでいる鳥獣害対策に協力して連携企業とパッケージデザインを含めたジビエレトルトカレーの開発を行った。これがきっかけで岐阜農林高校、岐南工業高校と連携、鳥獣害対策に取り組む「三校連携」へと発展した。



鮎菓子ポスターコンペの様子



三校連携キックオフ会議にて



ジビエレトルトカレー

学校番号	3 展商 0 2		
学校名	指宿市立指宿商業高等学校	担当教員/ 教授名	江口 和喜代
学校情報	所在地：鹿児島県指宿市岩本 2747 番地 TEL：0993-25-2204、FAX：0993-25-4527、URL：http://www12.synapse.ne.jp/ibusyo		

ねらい (○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性 <input type="checkbox"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="checkbox"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="checkbox"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) <input type="checkbox"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="checkbox"/> a) 特許・実用 <input type="checkbox"/> b) 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> c) 商標 <input checked="" type="checkbox"/> d) 著作権 <input type="checkbox"/> e) 種苗 <input type="checkbox"/> f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	地域社会と連携したビジネス教育による知的財産権教育の実践
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標) 地域ニーズを把握する農・水産・商工団体等と連携して、生徒による課題の探索、探索された課題を解決する考案・発明・創作等を促し、知財を活用した課題解決を体験できる教育活動を展開する。こうした取組の中から地域発の商品やサービスの展開に繋げ、「オリジナル商品開発」や「デザインパテントコンテスト」等の取り組みによる知的財産権・産業財産権取得等に展開していく。</p> <p>(取組の背景) 本校のビジネス教育は、体験や実学を伴いながら、企業や社会と提携し実践的な取り組みを推進してきた。これら「ビジネス教育の実践」は、今後次の大きな柱を中心に、伝統的に培われてきた内容(事業)を推進していく計画である。</p> <p>流通ビジネス[指商デパート、販売実習、中国語・韓国語の活用]・観光ビジネス[ICP活動、JR九州との連携、観光協会や観光課との連携、フリーマガジンの作成、中国語・韓国語の活用]・食ビジネス[指商レストランの運営、農産物の流通・加工・貯蓄、JAや商工水産課との連携]</p> <p>よって、各教科や実施してきた内容を上記の大きな柱別に分類し、体系的、系統的な形で専門分野を進めていく。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>◎「株式会社指商」事業部企画・販売実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アイデアコンテスト ○第1回ペーパータワー選手権 ○第1回知財教育授業 ○指宿マンゴーブランド化コンサルティング特別授業 ○指宿マンゴーブランド化パッケージデザインコンテスト ○知的財産開発事業 地域別交流・研究協議会に参加 ○第49回九州地区高等学校商業教育研究大会での販売実習 ○株式会社山形屋(百貨店)より依頼を受けての販売実習事前講習会、販売実習 ○株式会社サミット 高校株式会社交流・協議会を企画・開催 ○株式会社指商「社訓」お披露目 ○第26回球磨百貨店での販売実習・地域交流活動へ参加 ○第27回指商デパート ○「南薩地区専門高校フェスタ」学習成果の展示発表・販売実習 ○指宿小学校バザー販売実習 ○家庭科教育学習指導研究会での販売実習 <p>◎ICP(指宿・茶いっぺ・プロジェクト)活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お茶の入れ方講習会 ○ICP活動 ○第1回中国語による観光案内・おもてなし活動

	<p>○冷茶の入れ方講習会</p> <p>○第1回指宿のたまたま箱号に乗車してのおもてなし活動</p> <p>◎そらまMENプロジェクト2016</p> <p>○そらまMENを活用した商品開発打合せ</p> <p>○そらまMENプロジェクト2016 講座① 商品企画提案及び意見交換</p> <p>○そらまMENプロジェクト2016 講座② 商品企画提案, 商品企画原案決定</p> <p>○そらまMENプロジェクト2016 講座③ 商品企画原案検討, 商品企画決定</p> <p>○そらまMENプロジェクト2016 講座④ 商品確認, 仕入・販売計画など</p> <p>○そらまMENプロジェクト2016 開発商品プレスリリース</p> <p>○そらまMENプロジェクト2016 開発商品契約</p> <p>○そらまMENプロジェクト2016 開発商品指商デパート販売</p> <p>◎フリーマガジン『IBUSHOW』vol. 6</p> <p>○フリーマガジン『IBUSHOW』vol. 6 制作講習会</p> <p>○フリーマガジン『IBUSHOW』vol. 6 取材・制作活動</p> <p>○フリーマガジン『IBUSHOW』vol. 6 営業活動</p> <p>○フリーマガジン『IBUSHOW』vol. 6 営業講習会</p> <p>○フリーマガジン『IBUSHOW』vol. 6 完成・配布</p> <p>◎ファミマオリジナル商品企画・開発</p> <p>○ファミマオリジナル商品開発に向けての打合せ会</p> <p>○ファミマオリジナル商品開発に向けての商談プレゼン会</p> <p>○ファミマオリジナル商品の第1回試作商談会</p> <p>○ファミマオリジナル開発商品決定のためのプレゼン会</p>
<p>成 果</p>	<p>本校では、商業教育の各科目の中で知財教育を実践している。「地域活性化」をキーワードに、本校独自の特色ある教育活動を展開している。今年度は、「株式会社指商」の設立5年目にあたり、これまでの本校での活動をさらに発展させた取り組みを行った。「地域活性化アイデアコンテスト」、鹿児島山形屋での販売実習、中国語による観光案内・おもてなし活動や、「そらまMENプロジェクト2016」によるそらまMENオリジナル商品開発などに加え、今年度は株式会社サミットや、指商デパート・球磨百貨店での熊本県立球磨商業高等学校との相互販売実習など新たな知財学習に、各教科・科目の担当で積極的に取り組んでいる。指宿市・指宿市観光協会・地元企業などと連携することで、指宿のたまたま箱号での乗車おもてなし活動、指宿マンゴーブランド化パッケージデザインコンテスト等を実施するなど横への広がりも出てきており、地域活性化に貢献できたという手応えを感じている。また、フリーマガジン「IBUSHOW」は第6弾を発行することができた。今後も発行を継続するために採算や制作体制を見直し、取材から記事の編集・広告募集等を効率化し、独立採算が取れる状態で制作することができた。指宿マンゴーブランド化プロジェクトや、そらまMENオリジナル開発商品において、ロイヤルティーを含めた物品売買取引契約等ができたことは、知的財産教育における大きな成果であり、他校との連携や交流会への参加など昨年以上に知財教育へ職員と生徒がともに取り組み、知財教育の大切さを浸透させ、理解も深まっている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

学校番号	1 展商 0 1		
学校名	群馬県立前橋商業高等学校	担当教員/ 教授名	熊谷 博
学校情報	所在地：群馬県前橋市南町四丁目 3 5 番地 1 TEL：027-221-4486、FAX：027-243-2175、URL：http://www.nc.maesho-hs.gsn.ed.jp		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	地域貢献につながる商品開発と知的財産権の関連
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標) 商業高校で学んだ知識をもとに、新ビジネスの提案、新商品の開発を行い、外部に発表する。優れた企画をすることにより生きた知的財産権を学んでいく。</p> <p>(取組の背景) 群馬県では、GIA (群馬イノベーションアワード、新型ビジネス提案の発表会) や高校生と企業との新商品開発とその発表会等が行われている。本校における授業 (起業実践・学校設定科目) を通じてビジネス能力を磨き、その開発した提案を守るために、知的財産権が必要なことを学んでいきたい。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>授業 (起業実践、課題研究) を通じてビジネスコンテスト参加、商品開発等を行う中で、知的財産権の重要性を理解する。</p> <p>① ビジネスコンテスト参加 G I A (群馬イノベーションアワード) 参加 群馬銀行主催群銀ビジネスサポート大賞参加 日本政策金融公庫ビジネスプラングランプリ参加 大阪商業大学主催ビジネスアイデア甲子園参加</p> <p>② 群馬県と企業との商品開発に参加 ベシアとの「だるまばん」製作 とりせんとの「ゆず香るふわしゃき豆腐丸」の製作</p> <p>③ 企業との独自の商品開発 餃子の新商品提案、焼きまんじゅうを使ったデザート</p> <p>④ パテントコンテストへの参加</p> <p>⑤ 群馬県および地元の産業を知るなかで知的財産権を知る</p>
成 果	<p>ビジネスコンテストで発表する機会が多くなることで、プレゼンテーションの重要性が各生徒に浸透した。パワーポイントの技術向上、発表力の向上等が見られた。この後も課題研究発表会を校内で実施するが、より外部に発信できるように、プレゼン能力をより高めようとしている。</p> <p>絹産業を学んでいく中で、生糸が世界に向けて商標を出し、知的財産権を得たことを知る中で、群馬県民としての自覚が芽生え、地域貢献の気持ちが高まった。</p> <p>商品開発をする中で、グループ内でのコミュニケーション能力が増し、いい商品を開発するようになった。いい商品を開発することで、知的財産権が身近に感じられるようになった。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



GIA (群馬イノベーションアワード)



パンの商品開発



餃子の新商品開発



上州座繰りによる繭から生糸の生成



企業との商品開発と商品発表会

群馬県民の誇りをもった活動の推進

富岡製糸場が世界遺産となっている群馬県。徳富蘆花はその様子を、「機之音、製糸の煙、桑の海」と詠んだ。しかしながら、現在の群馬県にその姿はほとんどない。そのような状況を変えるべく「養蚕王国群馬」を知る活動を実施している。

生糸については、日本でいち早く商標権が生まれた産業である。すなわち諸外国への輸出をする際に、粗悪な製糸を送ったために諸外国からの信用を失い、これを守るため商標が発達した。なかでも前橋産の製糸は「マイバシ」と呼ばれ、高い評価を得た。

このような前橋市民であることを誇りに、養蚕→製糸→絹産業、一連の取り組みを復活させるべくこの活動を展開している。今年度の活動を礎に、養蚕においては、実際に蚕を飼うとともに、人手の足りない桑畑（群馬県養蚕技術センター）において、害虫（カミキリムシ）の駆除を行った。来年度は、桑の実（どどめ）の収穫を予定している。以上の活動を通じて、地域貢献に努めている。製糸においては、群馬県が実施する世界遺産キャラバンを講師に招き、世界遺産の研究と群馬県特有の座繰り（写真参照）により生糸を自分たちで繰り、それをもとに作品を製作したい。本年度は、繭人形の作成に取り組んだが、来年度は生糸を利用してランプシェードにも取り組む予定である。

以上のように、群馬県民としての誇りを高めながら、商標権を中心に知的財産権に取り組んでいきたい。

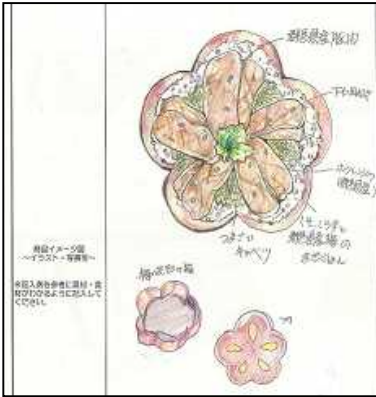
学校番号	商 0 1		
学校名	群馬県立高崎商業高等学校	担当教員/ 教授名	松本 智広
学校情報	所在地：群馬県高崎市東貝沢町 3 - 4 TEL：027-361-7000、FAX：027-364-6148、URL：http://www.takasyo-hs.gsn.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	商品開発やコンサルティングを通し、無から有を生み出す創造力や実践力の育成を図る。
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <p>知的財産に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせながら、無から有を生み出す創造的な活動を通して、知的財産を創造、保護、活用していくことができる人材を育成する。また、将来において自ら課題を発見し解決することができる能力と態度を持った人材を育成する。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>地域経済の発展に寄与する人材を育成することが、商業高校に課せられた使命であるといえる。そこで、地元企業等と連携した知財学習の取り組みを通して、生徒の創造的な能力や実践的な態度を育みたいと考え、本取組を実践した。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>○科目「商品開発」における取り組み</p> <p>流通ビジネス科 3 学年において科目「商品開発」を学習している。「食品に関する新商品を考える」というテーマに従いブレインストーミングや K J 法、アイデアマップなど様々なアイデア発想法を実践し、実際に企画書の作成を行った。</p> <p>○部活動「ビジネス研究部マーケティング部門」における取り組み</p> <p>ビジネス研究部マーケティング部門では、これまで県内の企業と連携して様々な新商品を企画・開発してきた。今年度は地元企業の依頼を受け、S C 内のスイーツ店のリニューアルオープンに取り組んだ。新商品やプロモーション活動のほか店名やロゴ、店舗デザインなど多岐にわたって実践した。K J 法などのアイデア発想法を実践し、様々なアイデアを創造した。さらに、店名等については J - P l a t - P a t 等を使用して商標を侵害しないか調査した。スイーツ店の名称は「i c e c o o k」として 7 月 1 3 日にリニューアルオープンすることができた。オープン後も、商品や P O P 広告などを改良して現在も営業している。</p>
成 果	<p>自ら考えたアイデアが形になり、経済的価値を生み出すことに対して、生徒は非常に高い関心を示した。また、その過程において仲間と話し合う活動や文字・図・言葉で表現する活動に積極的に取り組んでいた。その姿から生徒の創造的な能力や実践的な態度を育むことができたのではないかと感じている。スイーツ店のポスター作成の過程では生徒自らが考えて手作りパーツを作成し、より優れたデザインにするためにそれらを組み合わせながら試行錯誤した。このような工夫に対して企業からも高い評価をいただくことができた。今後もこのような取り組みを継続して、地域経済を担う人材の育成に励んでいきたいと考えている。</p>

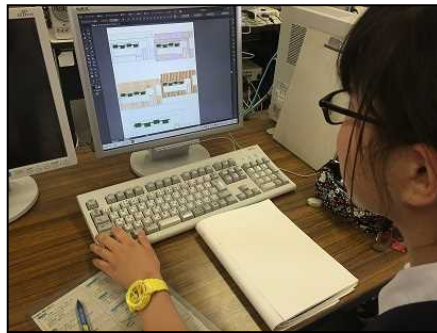
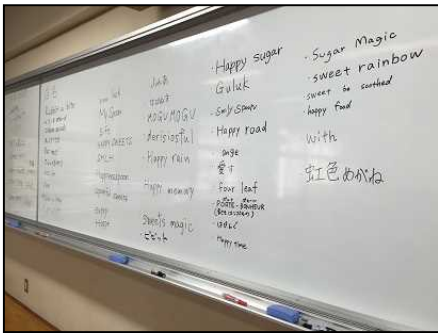
「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



科目「商品開発」の取組
地元食材を使用したお弁当を考案し、スーパー等へ提案

本校オリジナルキャラクターのアニメーションを作成(専門学校から講師派遣)



ビジネス研究部マーケティング部門の取組
地元企業の依頼で、SC内のスイーツ店をリニューアルオープン。店名を考え、ロゴ等も作成

(特記すべき取組と成果)

部活動「ビジネス研究部マーケティング部門」における取組について

本部活動はこれまで群馬県の活性化を目指して、商品の開発などを行ってきた。昨年度からは知財学習にも積極的に取り組むようになった。昨年度は障害者施設での新商品の開発やパッケージデザインの考案などに取り組んだ。

今年度は、SC内のスイーツ店のリニューアルオープンに携わり、新商品開発やポスターなど販促物の作成をさせていただいた。他にもクライアントからの依頼で、店名や店舗ロゴ、店舗デザインの考案など、より知財に深くかかわる機会をいただき、知財を幅広く学習できた。この活動を通して知財の大切さを生徒自らが考えられるようになり、J-Platformで積極的に調査する姿勢が見られた。



昨年度と比較すると、知財に関してより理解を深められた活動になったと考えている。今回の取り組みについて精査し、来年度以降より良い取り組みになるように努めていきたい。

学校番号	商 0 2		
学校名	神奈川県立商工高等学校	担当教員/ 教授名	加藤世紀 広瀬武史
学校情報	所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町 743 TEL：045-353-0591、FAX：045-353-1565、URL：www.shoko-h.pen-kanagawa.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	オリジナル印鑑「革印です!!」の製作
目的・目標 ・取組の背景	(目的・目標) 商業と工業の連携により、オリジナル商品を企画・立案し製作する ----- (取組の背景) 商業系で商品のアイデアを立案し、工業系で商品を製作し、改良を進め商品を作り出す
活動の経過 (知財との関連)	本校は、神奈川県で唯一の商業系と工業系が併設されている学校であり、その特徴を最大限生かし、知的財産教育に取り組んでいます。 実際には課題研究の授業を活用し、商業系（総合ビジネス科）で新しいアイデアを発想し、コンセプトを決定します。また、工業系（総合技術科）では、このコンセプトを基にし、実際の製作を行います。 完成した作品は、実際に使用し PDCA サイクルに則り修正や改良を繰り返して行い、実際の商品として仕上げるといった、一連の流れを知的財産教育として行っています。 今年度は、ストラップ形の印鑑を製作し、材料は革を用いて製作しました。 計画・立案の段階で JPlatpat を利用し、類似商品等の有無(特許・実用新案権)を確認し、各種権利の状況を確認し、ネーミング(商標権)を考案し商品のキャラクタ(意匠権)を検討し、実際の製作を行います。実際の製作においても、作業の効率化、量産時の対応などを検討し、生徒自身がゼロから考案し考え作る授業形態で進めています。
成 果	今年度作成した本校オリジナルの商品を説明します。 商品名：「革印です!!」(かわいんです) (【革】と【印】を掛け合わせ【可愛い】) 商品説明：印鑑を持ち運ぶのではなく、身に着けると新しいライフスタイルを提案し、いつでも印鑑を身につけられる構造の印鑑となっている。 経 緯：昨年度から印鑑製作を行っており、昨年度は印面を取り替えることのできる印鑑を開発し、製作を行った。その流れを引き継ぎ、新しいタイプの印鑑を新たに考案した。新しいライフスタイルの提案として、印鑑を持ち運ぶのではなく、身につけるをコンセプトにさまざまなアイデアを出し合い、デザイン性や機能性、ネーミングなど総合的に検討した結果、革ストラップ型印鑑が生まれた。 商業系と工業系の連携により、アイデアが形となり、最終的に実用が可能な商品までに完成させた。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

県立商工高等学校 製作作品

「革印です！！」



学校番号	商 0 3		
学校名	長野県丸子修学館高等学校	担当教員/ 教授名	酒井 慎也
学校情報	所在地：長野県上田市中丸子 8 1 0 - 2 TEL：0268-42-2827、FAX：0268-41-1050、URL：http://www.nagano-c.ed.jp/marukohs/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	総合学科における知財学習の導入
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合学科キャリア教育に知財学習を導入し、様々な開発・貢献・連携活動をより活性化する。 産業社会における人間力を養う。 総合学科の各分野で協働・連携した商品開発や知財学習が実践できるように指導体制を整える。 <p>(取組の背景)</p> <p>総合学科において、地域に貢献できる知財マインドを備えた人材の育成が必要であると考え、知財学習の導入を試みた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>①本校マスコットキャラクターであるマルシープを基調とし、素材がひと目でわかることを条件に、本校美術部に依頼。選考をし、具現化に至る。(図 1・写真 1)</p> <p>②静岡理科大学、浜松市主催の高校生「ものづくり・ことづくり」プランコンテスト 2016 へ応募した。それぞれどちらかを選択し、アイデア創出に励んだ。本来であれば、コンテスト応募前に J-Plat-Pat を活用し、自分のアイデアが登録されているか否かを調査すべきだが、生徒の発想を最優先して、後日活用を試みた。(図 2・3)</p> <p>③全校生徒に対し、知的財産やその権利について知ってもらうための知財通信を発行し、SHR や LHR 等で配布して活用してもらった。(図 4)</p>
成 果	<p>①「自らが関わった」という意識から、それぞれの加工品やラベルに愛着が芽生え、意欲的に授業に取り組んだり、販売に関わったりした。また、美術部員に関しても、自分達が考えた図案が「形」になり、世に出回ることによって、より一層意欲的に部活動に励むことができた。</p> <p>②計画では、パテントコンテストへの応募を考えていたが、そこまできちんとした学習ができず、コンテストを変更した。思いもよらない発想が見られ、中間発表や意見交換の時間では、お互いに質問や提案する姿が見られた。教科書を使った授業よりも意欲的に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>③知財関係のアンケートを年度末に集約したいと考えている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

学校番号	商 0 4		
学校名	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	担当教員/ 教授名	浅井 勝巳
学校情報	所在地：長野県飯田市鼎名古熊 2 5 3 5 - 2 TEL：0265 - 22-7117、FAX：0265—0000、URL：http://www.nagano-c.ed.jp/oideosa/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 (b) 法制度・出願 (c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) (d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 (c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	飯田の情報発信をする商品開発
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標) Uターン、Iターン人口を増やすための第一段階として飯田の魅力の情報発信を行う</p> <p>-----</p> <p>(取組の背景) 飯田市の人口減少の要因は、若者世代の人口流出である。進学で都市部に行った若者が戻ってきたいと思うような情報を発信することで、どこかのタイミングでUターンをするという選択肢を芽生えさせることを目的とする。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>飯田の魅力の調査(地域資源の調査)をしていたところ、飯田でフィールドスタディをしていた法政大学商学部酒井ゼミと飯田の水引のPRを都市部で行うことになった。飯田市と南信州産業センター、飯田水引組合、法政大学酒井ゼミ、本校でプロジェクトチームを作り、商品開発を行った。</p> <p>商品開発のアイデアを高校生と大学生で行う中で、飯田の水引をお弁当の留め具として使うということになった。南信州の食材を使ったお弁当を水引の留め具で包むお弁当の開発をすることとなった。</p> <p>コンセプトを決めて水引のデザインとお弁当の中身を高校生と大学生で検討してお弁当を開発した。数回の試食会を経て、品川観光フェアで都市部の人に向けて試験販売を行った。この際に、情報発信のツールとしてオリジナルキャラクターを使ったTwitterを開発しフォロワー数を増やすことで情報発信の量的な効果測定を試みた。</p>
成 果	<p>情報発信の効果としてはTwitterのフォロワー数は90とあまり多くないが、品川での販売の際に、有名声優と舞台俳優の団体に販売をすることができ、Twitterでフォローをしてもらった。SNSの効果は限定的ではあるが、フォロワーは都市部在住者が多く小さな影響力はあるのではないかと推測される。</p> <p>今回の活動をきっかけに、2017年度のJRのディスティネーションキャンペーンが長野県であることから、JR東海、JR東日本に開発したお弁当を採用してもらえるように製造業者が中心に展開することとなった。</p> <p>現時点で開発したお弁当は145個販売しており、飯田市の視察旅行などの需要を開拓している。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>

飯田の水引を使ったお弁当

大学生と高校生が企画し、地域の人々の協力で完成

品川観光フェアで試験販売



【効果】

高校と大学、行政、民間企業の協働プロジェクトであり、2017年度のJRのディスティネーションキャンペーンのお弁当に採用に向けて、関係機関と連携した。

まずは実績を作るため、飯田市を訪れる視察関係者の昼食に採用してもらえるように飯田市長、副市長、教育長などに試食会を行った



オリジナルキャラクター
きのこの妖精 ていんぬ



“ご縁結び弁当”オリジナル動画の制作

飯田の魅力情報を発信する目的で開発された“ご縁結び弁当”をより多くの人にPRするために動画を制作した。動画では、飯田の人口減少の危機を救うために現れたキノコの妖精「ていんぬ」と高校生がお弁当の中身を紹介していくストーリーになっている。脚本、演出、撮影、編集、小道具制作まですべて生徒たちが行った。

ていんぬの声は、生徒たちがイメージが一番合うという国語の教員をお願いをした。慣れない撮影に悪戦苦闘しながらも、何とか動画が完成した。完成した動画は、校内外の発表会で流し反応を見て少し再編集しYoutube にアップする予定である。



学校番号	商 0 5		
学校名	静岡県立沼津商業高等学校	担当教員/ 教授名	湯川 司
学校情報	所在地：静岡県駿東郡清水町徳倉 1205 TEL:055-931-7080 FAX:055-934-3360 URL: http://www.edu.pref.shizuoka.jp/numazu-ch/home.nsf/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	地域の特産物を使用した商品開発とキャラクターデザインの制作
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標) 地域の特産物を使用した商品を地域の企業と共に開発。また本校のキャラクターデザインを制作し、それぞれに次の段階として知財(商標)について学習する。</p> <p>(取組の背景) 地域の特産物を使用した商品開発は以前より取り組んでいたが、新しい取り組みであるキャラクターデザインも含め、単年に終わらず翌年に続いていく学習に取り組んだ。商品起亜発は生徒の発想を形にしてから知財学習を進めることにした。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>総合ビジネス科経営コースの取り組み 「課題研究」の授業で、企業と連携して地域の特産物を使用した商品開発に取り組み「沼津餃茶」を完成させ(写真1)販売実習を8月(写真2)12月に行った。商品が完成し販売実習を終えた後、11月に弁護士による知財・商標登録についての講義を受け(写真3)生徒自身のアイデアが形になった商品をもとに「商標登録とは」「なぜ商標登録が必要なのか」を学習した。</p> <p>さんフェア石川2016に参加し商品開発への取り組みや課題を発表することができた。</p> <p>情報ビジネス科マルチメディアコースの取り組み 「情報コンテンツ実習」の授業で、グラフィックデザイナーの先生に「自分のアイデアを商品にすること」「商品が完成して消費者に渡る道のり」について講義をいただき(写真4)本校のオリジナルキャラクターを生徒全員が制作し、校内のコンテストをもとに本校のキャラクターを決定し(写真5)、それをプリントしたエコバックを、総合ビジネス科経営コースが行った12月の販売実習にて無料配布した。(写真6)その際アンケートを実施、そのキャラクターの発展と知財の学習へと来年に繋げていくことにした。</p>
成 果	<p>生徒は自分のアイデアが形になることで意欲関心が高まった。大事なことは生徒が自己満足に終わらず、「沼津餃茶」は地域の特産物をアピールすることがコンセプトであり、キャラクターデザインも本校をアピールするコンセプトをもって商品化を目指したことで、良い商品が出来上がった。「沼津餃茶」が完成し生徒が愛着をもった商品をもとに商標登録について学習できたことで生徒の理解度を深めることができた。</p> <p>初めて聞く弁護士の先生の講義は難しいものであったが、生徒の感想には「これから社会で働くには必要な知識である」と多く述べられていた。J-Plat の利用も弁護士の先生の講義のなかで使用し調べることができた。</p> <p>キャラクターデザインは制作にとりかかる前に、実際に活躍している専門家の先生から講義を受けることで、何のためのデザインか、知財の重要性も理解しながら作成することができた。</p>



(写真1) 沼津餃子茶完成



(写真2) 販売実習



(写真3) 弁護士 講義



(写真4) デザイナー講義



(写真5) キャラクターデザイン完成



(写真6) エコバック無料配布

（特記すべき取組と成果）「地域・家庭と連携した商品開発に生徒が学ぶこと」

今回の知財に関する取り組みのおかげで、生徒は貴重な体験学習をすることができた。そこには地域との関わりがとても重要であり、商品開発にあたり地域の外部の企業の方々や生徒と一緒に開発する過程で生徒は多くのことを学びました。沼津市の青年会議所の方々の地域を愛する思い、JA なんすんの職員の方々の商品に対する思い、餃子を作っていたいただいた餃子専門店のプロの思い。たくさんの思いに直接生徒は触れながら商品が完成していきました。そこには感謝の気持ちも育っていきました。

完成した商品を生徒の保護者に無料配布してアンケート調査を行いました。目的は商品がはたして売れる商品なのかを検討するためのものでしたが、大事なことがもう一つありました。生徒が開発した餃子を家庭で保護者と焼いて食べる風景にはどんな会話がされているのでしょうか。「美味しい」「美味しくない」だけではなく、生徒の家族の夕飯の時間に、生徒が取り組んでいる学習に保護者は興味や理解をもってアンケート用紙に記入してくれたと思います。

暑い夏休み中の販売実習で餃子を販売しました。初めて会うお客様に、自分たちが開発した餃子を販売し、「美味しいね」と言ってもらった生徒は感動していました。

そして私たち教員も地域の方々からたくさんのことを教わりました。これからも地域の方々や生徒を繋げ、家庭も一緒になって商業教育の学習を続けていきたいと思っています。



(餃子専門店の方々と一緒に)

学校番号	商 0 6		
学校名	石川県立大聖寺実業高等学校	担当教員/ 教授名	谷内 洋之
学校情報	所在地：石川県加賀市熊坂町ヲ77 TEL：0761-72-0715、FAX：0761-72-8133、URL：http://www.ishikawa-c.ed.jp/~daisjh/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="radio"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	知的財産に関する理解を深め、地域と連携し地域活性化の取り組みを展開する。
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <p>知的財産を学習することにより、知的財産に関する理解を深めるとともに、地域の企業と連携した商品開発やものづくりの場を経験し、創造性や実践的な能力を身につける。</p> <p>-----</p> <p>(取組の背景)</p> <p>地元企業から即戦力となる人材の育成を期待されており、実践的な能力を身に付けさせる必要がある。座学で得た知識をどのように活用し、ビジネスに生かしていくかを自ら考える場面を設定し、想像力・活用力・実践力を養うことを目的とした。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>5月 商品開発のために KJ 法を実施。 教科「商品開発」において、知的財産権の種類や内容について学んだ。</p> <p>7月 弁理士による特許情報プラットフォームに関する講座を受講した。 小松短期大学教授による「フラッシュアニメーション」の作成講座。 小松短期大学教授による「プログラミング」の講座。(写真①)</p> <p>8月 アプリの試作を行った。 パテントコンテストに応募した。 名古屋で行われた地域別情報交換会に参加した。</p> <p>9月 アプリ作成の際に参考にした Web ページの管理人と連絡を取り、参考の許諾を得る。 大学における知的財産の創造・保護について授業を体験した。(写真②)</p> <p>10月 加賀商工会議所に出向き、アプリ作成の趣旨と過去問のデータ使用の許諾を得る。</p> <p>11月 全国産業教育フェアにて知的財産の取り組みに関するブースを出展しアプリ作成の取り組みの成果を発表した。(写真③④)</p> <p>12月 北國新聞の取材を受けアプリ作成に関する取り組みが掲載される。 商工会議所の会報にアプリ作成に関する取り組みが掲載される。</p> <p>2月 石川県商業生徒発表会で今年度の取り組みを発表する。(予定) 全国商業生徒発表会にて知的財産の取り組みを発表する。(予定)</p>
成果	開発した商品の取り扱いでは生徒による交渉の結果、土産店や旅館、高速道路の SA など継続した販売協力得られた。また、商工会議所からアプリ配信の依頼があった。取り組みが広まりつつあるのを実感している。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



(写真①)



(写真②)



(写真③)



(写真④)

(特筆すべき取り組みと成果) 加賀ふるさと検定アプリの開発について

アプリ開発には小松短期大学・アシアル株式会社の協力を得て、基礎的な知識を身に付けるための講座を開いていただいた。その後、得た知識をもとにデザインや機能など開発に必要なことを自ら考えることで、想像力・活用力を身に付けることができた。また、加賀商工会議所をはじめ小松短期大学や北國新聞・Web 管理者など、学校外との連携の機会を持ち、アプリ作成に係る交渉などの多くを生徒自身が行うことで、実践力だけでなく自らの手で作ったという自信を持つことができた。



学校番号	商 0 7		
学校名	愛知県立 知立高等学校	担当教員/ 教授名	原 啓二
学校情報	所在地：愛知県知立市弘法 2 - 5 - 8 TEL：0566-81-0319、FAX：0566-81-5297、URL：http://www.chiryu-h.aichi-c.ed.jp/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="radio"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目 標要約	創造力育成の取り組みを全学年に拡大する
目的・ 目標 ・取組 の背景	<p>(目的・目標)</p> <p>1 年生では壁新聞コンテストへの応募で、経済、ビジネス、法律に関する世の中の出来事に 関心を持たせる。</p> <p>2 年生ではデザインパテントコンテスト応募に向けての取り組みをし、入賞を目指す。</p> <p>3 年生では裁判員裁判の傍聴や模擬裁判を通して規範意識を養う。</p> <hr/> <p>(取組の背景)</p> <p>新聞を読まない生徒が増え社会の出来事に関心のない生徒が多いなかで、経済、ビジネス、 法律に関心を持たせ規範意識を養うことが必要だと感じたため。</p>
活動の 経過 (知財と の関連)	<p>2 年「マーケティング」(選択科目) 4 クラス 5 5 名の取り組みのみを紹介する (導入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年生で全員がデザインパテントコンテストに応募している (グループでの取り組み) ・ 各班でペットボトルから商標・意匠を考える (ホワイトボードと赤・青の付せんを活用) <p>(展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 4 用紙に「六面図」を作成→弁理士さんへ郵送→講評および優秀作品の選出 ・ 弁理士による検索実習よりも講評に生徒は興味を持つ (専門家からのコメントに一喜一憂) <p>(整理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デザインパテントコンテストへの応募 ・ ロングセラー商品の研究
成 果	<p>1 年生で知財の概要を理解した生徒たちが、2 年生でデザインパテントコンテストへ応募す ることにより中身の濃い知財教育ができた。ホワイトボードと付せんは、班活動の教材として 大変効果があった。</p> <p>ペットボトルから商標・意匠を考える取り組みでは、価格・デザイン・知名度・品質等まで 検討させるべきであった。</p> <p>デザインパテントコンテストへの応募は、校内の予選を経て量から質(12 作品)へ転換した。 大切なのは弁理士さんとの連携であり、継続的・段階的な指導を受けることである。弁理士さ ん(専門家)の的確な指導・助言により応募作品の質が上がった。</p> <p>昨年の入賞者 2 人に続き、今年は 1 人の入賞者を出すことができた。(入賞は 3 年連続)ま た、卒業式前日の表彰で学校賞を与えることになった。これは本校での知財教育の認知度が上 がったことだと感じる。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>

(写真1) デザインパテントコンテスト 弁理士講演会



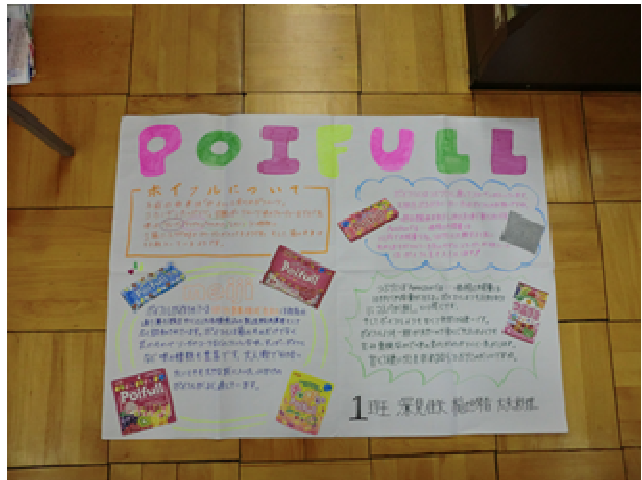
(写真2、3) お茶のペットボトルから商標・意匠を考える



(写真4) 模擬裁判の実施



(写真5) ロングセラー商品の研究



<写真・図表等掲載欄>



課題研究

「アントレプレナー入門」開講式の様子
(高砂商工会議所)



課題研究

「アントレプレナー入門」装飾講習



課題研究

「広報しようよう」
高砂銀座商店街 朝ごぼん市ポスター作成



課題研究「アントレプレナー入門」販売実習
松の子本舗Ⅱ店内様子
(伊保駅前店街内
かんころりんにて)



課題研究

「広報しようよう」
外部講師授業の様子



商品開発

「商品開発」ブレンストーミング・KJ法の様子

(特記すべき取組と成果) 商品開発の取組について

2年生商業科で実施した「商品開発」において、今年度は地域の企業と連携して「和菓子」をテーマに商品開発の授業を実施し、後半はほっと（温かい）な商品を試作し、試食会を行った。

3年生の課題研究では起業家育成をテーマにした「アントレプレナー入門」では地元パン店と連携しオリジナルパンの販売を実施し、広報を学ぶ授業の「広報しようよう」において、地元のイベント広報のポスター製作において講師を招聘して実施できた。

これらの授業では生徒のアイデアを引き出すためにコミュニケーションゲームやKJ法をはじめ、専門家からのアドバイスを頂けた。並行して知的財産権、創造力や実践力、パッケージデザインなど幅広く学習し、活用能力の向上を図ることができた。実際に自分の考案した商品を一般の方の前に披露でき、達成感を得ることができたと考えている。

学校番号	商 0 9		
学校名	兵庫県立長田商業高等学校	担当教員/ 教授名	中川 靖隆
学校情報	所在地：兵庫県神戸市長田区池田谷町 2 - 5 TEL：078-631-0616、FAX：078-631-0617、URL：http://www.hyogo-c.ed.jp/~nagata-chs/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	スクールキャラクターの活用 (関連商品開発) について
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標) 知財の基礎を学習し、知的財産権を取得する実践力を身につける。スクールキャラクターに関連した商品開発を行う。開発した商品の知的財産権の模擬的な出願書類を作成する。</p> <p>(取組の背景) 昨年の取り組みを継続しつつ、以前開発したスクールキャラクターを活かした関連商品の開発を通して、知的財産権について理解を深める。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>1 学期 知的財産権標準テキストを利用し、知財の基礎学習を行う。 企業が開発したヒット商品・定番商品から知的財産権に関わる学習を行う。 企業見学を実施し、知的財産に関わる学習を行う。 外部講師を招聘し、柔軟な発想力を磨くためアイデア発想法を随時実施する。</p> <p>2 学期 外部講師を招聘し、スクールキャラクターに関するデザインを行う。 外部講師を招聘し、地域と連携した商品開発を行う。</p> <p>3 学期 研究発表会を実施する。</p>
成 果	<p>知的財産権の学習で得た知識をスクールキャラクターや商品開発にどの部分で活用されているかを結び付けて考えさせた。また、外部の講師の方に来てもらい、実務的な分かりやすい説明をしてもらい、生徒の理解度も上がった。</p> <p>スクールキャラクターや地域と連携した商品開発に向けて、予定よりも大幅な時間がとられ、知的財産権を取得するという当初の目標は、到底達成できない状況になり、商品の企画までを本年度の内容としました。</p> <p>今年度も授業の進捗度の遅れや校内行事などの理由により予定していた事業の多くを実施できぬまま終わってしまったが、次年度も本事業に参加させていただけるのであれば、今年度の反省と収穫を活かし、より多くの生徒が知的財産権について学ぶ機会を作っていきたい。また、校内のカリキュラムとして単年度の計画になってしまっている節があるので次年度以降の展開について、全専門教科の指導内容と入学時から卒業に至るまでの学習体系の整理検討をすすめている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

学校番号	商 1 0		
学校名	兵庫県立洲本実業高等学校	担当教員/ 教授名	大山 博康
学校情報	所在地：兵庫県洲本市宇山 2-8-65 TEL：0799-22-1240、FAX：0799-22-2583、URL：http://www.hyogo-c.ed.jp/~sumoto-ihs/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	ものづくりとビジネス教育をととした知的財産権の学習および創造性の育成 ～ロゴ制作を中心として～
目的・目標 ・取組の背景	(目的・目標) 校内に知的財産を推進する体制をつくり、その体制のもと、生徒の知的財産権に対する関心度を高め、多くの企業や有識者からの講義などで意識を高めたい。デザインやロゴなどのコンテストを全校生より募集し積極的な展開を進め創造力や実践力を育成する。 ----- (取組の背景) 本校は、兵庫県の淡路島にある唯一の専門高校で、創立 87 年を迎える伝統校として淡路島の産業界を支えている。現在は少子化の影響で学級減が余儀なくなされ、機械科・電気科・商業科・国際ビジネス科の各科 1 クラスの編成となっているが、各科とも特色づくりに邁進している。
活動の経過 (知財との関連)	① 校内において、知的財産学習を行う上での組織体制をつくった。(学校組織・運営体制) ② デザイナーを招いて、全校生に知的財産学習に対する講演会を実施した。(知財の重要性／学習意欲向上) ③ 全校生に対して、デザイナー等の講師による指導のもと、工業科・機械科・電気科・商業科・国際ビジネス科のロゴのデザイン方法を学んだ。(人材育成／学習意欲向上) ④ 全校生に各々の科のロゴを一人一枚作成した。(意識変化) ⑤ 全校生の中から投票で選ばれた代表者により各科のロゴを仕上げた。(知財の重要性／学習意欲向上) ⑥ 全校生にプレゼンテーションを行う予定である。
成 果	地元のデザイナーを招き、デザインの基礎やロゴに関する意味などを講義していただき、商標についての重要性を理解し、生徒のデザインに関する関心やロゴに関する興味が高まった(写真1)。淡路島内にある店のロゴの誕生までの説明を聞き、ロゴ作成においての実技指導を受ける(写真2)。生徒はロゴに関する興味関心が高まり、様々なアイデアを出し、表現することができた。夏の課題として、ロゴ用紙を全生徒に配布し(写真3)、ロゴの代表者を投票により決定した(写真4、5、6)。様々なアイデアが詰まっており、生徒たちはデザインすることに興味関心をもつことができた。投票で選ばれた各科の代表者は学年を超えたチームとなり、各科のロゴについて話し合いを行った(写真7)。何度もアイデアを出し合い、検討することでよいロゴを作ることができた。知的財産について、弁理士による講演会を行った。産業財産や商標について理解することができた(写真8)。各科のロゴをコンピュータで仕上げた(写真9)。1月末に全校生徒に各科のロゴをプレゼンテーションする予定である。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) デザイナーの講演会



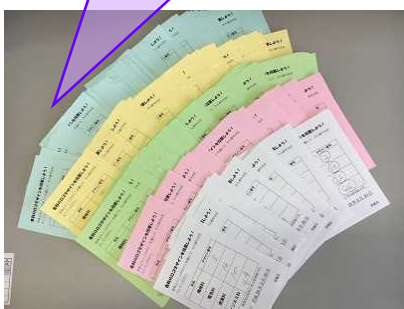
(写真2) 実技指導



(写真3) ロゴ作成用紙

投票結果より、ロゴに関する興味関心の高さがうかがえた。

他生徒のデザインを見ることで、新しくロゴを作る難しさと面白さを実感させることができた。



(写真4) 投票用紙



(写真5) 投票の様子



(写真6) 投票結果



(写真7) 代表者会



(写真8) 弁理士の講演会



(写真9) 代表者会

各科のロゴ作成の前に、デザイナーによる講演会を行った。淡路島のあるお店のロゴ作成の依頼から完成に至るまでの話を聞いた。その後、デザイナーによる実技指導を行った。いきなり白紙にロゴを書くのではなく、アイスブレイクとして、変顔を書き、お互いに見せ合うことで、創造力が高まった。すると、各科のロゴ作成のアイデアが出やすくなった。

全校生が描いたロゴの中から一部抽出し、全校生徒や職員による投票を行った。投票を行うことで、全校生徒が知的財産や各科のロゴに興味関心をもったと感じた。生徒は自身の科のみならず、他の科のロゴにも興味をもった。

今後は各科のロゴを用いて商品開発や作品制作を行っていく予定である。商品や作品を本校の各科アピールへつなげていくことを考えている。今年度、淡路島は日本遺産に認定されたので、淡路島と洲本実業高校をアピールできる知的財産学習や制作指導を行っていきたい。

学校番号	商 1 1		
学校名	岡山県立岡山東商業高等学校	担当教員/ 教授名	笠木 秀樹
学校情報	所在地：岡山県岡山市中区東山 3 丁目 1 番 6 号 TEL：(086)272-1237、FAX：(086)272-1230、URL：http://www.higasho.okayama-c.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	にぎわいのある街をデザインする —地域連携をとおして知的財産権を活用—
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標) 地域連携をとおして知的財産権を活用することによって、錆びれた商店街の活性化や地元企業との連携でにぎわいのある街をデザインする</p> <p>(取組の背景) 本校では、学習指導要領に沿って教科として「商品開発」および「広告と販売促進」を教育課程に採用しており、組織上で事業部を構成しているのがこの担当者である。つまり、地域と連携した実学としての教科をめざしているため、事業の推進＝授業として、授業の中で人材の育成も兼ねて研鑽を積むことで持続可能である。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>① 商品開発 「商品開発」の授業を中心として、地域と連携して、商品開発から、企業のブランド戦略に関する知識を修得すめのために、岡山の代表的な銘菓の製造業者である中山昇陽堂と連携して、1月発売を目標に岡山特産の芋を使った「早雲密芋吉備団子」の開発や鷹取所依う湯と連携した「ゆず&レモン ドレッシング」などに取り組んだ。</p> <p>② 商店街ポスターづくり 広告と販売実習では、商店ポスターの製作をとおし、独創的なデザイン創造の大切さと意匠制度に関する能力を身に付けさせるため、地元の表町商店街と連携して各店舗のポスターのデザインに取り組んだ。</p> <p>③ 学校マスコット 全校生徒を対象に学校のマスコットのデザインに取り組み、全校でコンテストを実施したが、最終的には決定に至っていない。</p>
成 果	<p>① 地元企業とコラボで商品開発 地元企業と連携して、商品開発に取り組むことにより、企業のブランド戦略に関する知識を修得でき、さらに実践能力が身に付けることができた。</p> <p>② 商店街を独創的なポスターでPR 地元の表町商店街と連携して生徒自らが店主と相談し、各店舗のポスターのデザインに取り組んだことにより、独創的なデザイン創造の大切さと意匠制度に関する実務能力が身に付いた。</p> <p>③ 学校マスコット HRにおいて、学校のマスコットのデザインに取り組み、全校でコンテストを実施したことにより、学校のシンボルを独創的なデザインの制作により創像力を身に付けさせた。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>

老舗の鷹取醤油に
瀬戸内をぎゅっと詰め込みました

1月に発売

しょうゆ + ゆず オリーブ レモン =

鷹取醤油・両備ストアとコラボ

瀬戸内をぎゅっと
ゆずレモンドレッシング

西大寺町商店街とコラボ

早雲蜜芋

糖度37~40度の甘い芋で、焼けば蜜が溢れる奇跡の味わいを
きびだんごにしました

中山昇陽堂とコラボ

東商オリジナル
早雲蜜芋きびだんご

岡山・西大寺町、新西大寺町商店街店舗
東商高生 ポスター制作
授業の一環 来月月末まで掲示

岡山県東大寺町、西大寺町、新西大寺町の3町をまたがる商店街の活性化を目的として、東商高生がポスター制作を行いました。ポスターは、商店街の魅力を伝えるだけでなく、地域の歴史や文化についても紹介しています。ポスターは、来月月末まで掲示されます。

「西大寺町商店街」のポスター制作は、東商高生の授業の一環として行われました。ポスターは、商店街の魅力を伝えるだけでなく、地域の歴史や文化についても紹介しています。ポスターは、来月月末まで掲示されます。

(特記すべき取り組み) ゆず&レモンドレッシングの取り組みについて

ヘルシーなお料理の代表とも言えるサラダ。美味しくヘルシーに楽しむためにドレッシングは不可欠です。私たちが考えたドレッシングには、瀬戸内がギュッと詰っています。鷹取醤油の伝統的な醤油をベースとして、あら切りオリーブとたまねぎを使用、具がたっぷり入り酸味を抑えた、まろやかな味わいのドレッシングです。

老舗の鷹取醤油(株)とコラボレーション、ドレッシングづくりからラベルまで、私たちが企画しました。まずは、企画を持ち込んで社長に提案、内容を理解してもらうための説明には苦労しました。それ以上に、製品化に向けて、ドレッシングづくりは、経験もなく味覚に慣れないので一生懸命、お客様に喜んでいただける味を追求しました。東商デパートでは、試食コーナーを開設して100人以上の方に感想を聞き、そして、できたのがこの「瀬戸内のゆず&レモンドレッシング」です。ラベルづくりでは商標のデザインで学んだことを生かすことができ、両備ストア各店での発売を楽しみにしています。



学校番号	商 1 2		
学校名	私立 瓊浦高等学校	担当教員/ 教官名	情報ビジネス科 阿 部 泰 宣
学校情報	所在地：長崎県長崎市伊良林 2 - 1 3 - 4 TEL : 095-826-1261 FAX : 095-825-5245 URL : http://www.keiho.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="radio"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) <input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 <input type="radio"/> b) 意匠 <input type="radio"/> c) 商標 <input type="radio"/> d) 著作権 <input type="radio"/> e) 種苗 <input type="radio"/> f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	商品開発等の創造的・実践的活動を通しての知財マインドの醸成
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 商品開発等の創造的・実践的な活動を通して知的財産に関する基礎的な理解と知財マインド(創造の意欲や創作を大切に作るマインド)を醸成する。</p> <p>(取組の背景) ①様々なアイデア発想法授業を取り入れ、より質の高い商品開発を目指す。 ②商品開発、販売実習等を活用し地域交流・地域貢献に積極的に関わる。 ③実践的な体験学習を通じ生徒の自発的な学習態度を引き出すことを心がける。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>(導入)</p> <p>4月：昨年度までの知財学習の振り返り(商品開発・販売実習・パテントコンテスト等について)</p> <p>4月：知的財産に関する基礎的内容の学習。(「産業財産権標準テキスト総合編」を活用) (展開)</p> <p>5月：アイデア発想法授業 (マインドMAP・紙タワー・紙飛行機コンテスト・マシュマロチャレンジ・エクスカッション)</p> <p>6・7月：農林水産省主催「第5回ご当地!絶品うまいもん甲子園」応募 (企画書・試作品製作①・試食会・アンケート調査)</p> <p>7月：商品開発(和菓子・洋菓子:既存商品の改善)</p> <p>7月：販売実習の計画と実施①(第34回ふれあい広場・伊良林校区祭り)</p> <p>8月：職員、代表生徒研修(地域別交流・研究協議会への参加・中間報告 近畿地区へ参加)</p> <p>8月：農林水産省主催「第5回ご当地!絶品うまいもん甲子園」九州エリア選抜大会 (試作品製作②反復・試食会・プレゼン練習)</p> <p>9月：アイデアコンテストの実施(パテントコンテスト応募へのチャレンジ) ・アイデアコンテスト優秀作品のブラッシュアップ。 ・パテントコンテスト応募へ向けての試作品製作。応募作品のブラッシュアップ</p> <p>9・10月：農林水産省主催「第5回ご当地!絶品うまいもん甲子園」全国大会に向けて (試作品製作③反復・試食会・プレゼン練習・産地訪問[製造体験・インタビュー])</p> <p>10月～11月：商品開発(新商品開発:焼き菓子開発)</p> <p>11月：農林水産省主催「第5回ご当地!絶品うまいもん甲子園」全国決勝大会</p> <p>11月：販売実習の計画と実施②(島原産業フェア)</p> <p>11月～12月：商品開発「ウドリア」・ファミリーマートとの商品化に向けての打合せ ・コンビニ販売に向けての試作品製作と試食</p> <p>(まとめ)</p> <p>1月：今年度の取り組みの総括。年次報告会参加。</p>

1・2月：校内発表会の準備と実施。

成果

- ・まとめ
- ・気づき
- ・反省
- ・課題

本事業参加3年目となった今年度は商品開発の面で大きな成果が出せた一年となった。昨年度の(株)ローソンとのコラボ企画(高校生タイアップベーカリー商品開発)に挑戦した経験を発展させたいと考え、農林水産省主催・文部科学省後援「第5回ご当地!絶品うまいもん甲子園」への応募に挑戦した。商品開発の一環として取り組んだ本企画は地域活性化と人材育成をテーマとし地元食材を活かしたアイデア料理を考案し競い合うという内容。情報ビジネス科3年生が3人一組の班をつくり全員が企画を考案し応募した結果、五島うどんをドリア風にアレンジし、熊本地震復興支援の意味を込めて熊本トマトを具材に加えた「ウドリア」が九州エリア選抜大会出場作品に選考された。試食とプレゼンを行い審査された8月末の九州エリア選抜大会では「優勝」、11月に東京で開催された全国決勝大会では「準優勝(農林水産省:食料産業局長賞)」と「特別賞」を受賞。大会の副賞として2月より九州地区ファミリーマートでの「ウドリア」の商品化と販売が決定した。昨年度まで取り組んだオリジナルスイーツ開発、(株)ローソンとのタイアップ商品開発等の経験が活かされた結果だと受け止めている。商品開発の質の向上という目標を大きく前進させることが出来たと同時に、生徒達が教室の授業の中からスタートさせた発想が世の中に広がっていく過程を経験できたことは本校知財教育における代えがたい財産となった。また、この企画の中で実施した食材の産地訪問や製造体験において現場の生産者の方々と交流できたことも貴重な学習となった。産地の方々から頂いた「私達が一生懸命製造している商品をこのような形で取り上げてくれたこと、広めようとしてくれることに感謝する。生産者としてこれ以上の喜びはない。」という言葉に生徒達の心は大きく揺さぶられていた。自分達の取り組んだ商品開発の意味、若者の意欲が社会を明るく照らす力となること、勉強の必要性を深く考える契機となったことを確信している。この取り組みの成果は報告会や新聞、TV等のメディアを通じても地域や学校全体に反映されており、知財教育に取り組んだ成果の一つと考えている。

他にも、今年度のパテントコンテストに応募した10点の考案の中から「ジャッキアップポイントプロテクター」が優秀賞を受賞し特許申請支援対象発明として選考されている。また、今年度は初めて島原地区で販売実習を開催し焼き菓子を新商品として販売した。ラングドシャ「Keifu!」・ヘルシー志向の「おからクッキー」の2つの商品開発に成功した。

商品開発やパテントコンテスト応募を通じ、生徒達が自分たちの発想力、企画力に自信を深めたことと同時に、本校の取り組みが微力ながら地域の話題性を高め、食材産地活性化の一役を担う力となったことを鑑みると知財教育推進の大きな一歩となる一年であったと振り返っている。次年度以後も積極的な活動を展開していきたい。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

①伊良林校区夏祭りでの販売実習



②アイデア発想法授業(マシュマロチャレンジ)



③うまいもん甲子園(産地訪問・上五島(株)ますだ製麺)



学校番号	商 1 3		
学校名	出水市立出水商業高等学校	担当教員/ 教授名	高吉 淳一
学校情報	所在地：鹿児島県出水市明神町 2 0 0 TEL：0996-67-1069、FAX：0996-67-4345、URL：http://www12.synapse.ne.jp/izumisyo/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	「知的財産権の実際を理解する」
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <p>今年度は、学校全体で知的財産教育の浸透・定着に取り組む。特に、1年「マーケティング」や2年「商品開発」・3年「広告と販売」3年「課題研究(調査研究・作品制作)」を活用して、学年進行で知的財産教育を進める。また外部との連携や講演会・学習会を実施し、「活かした学習」を生徒に体験させることで、今後の学習に繋げる。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>昨年度より、教育課程にて、商業科は商品の企画・開発・広告を学年進行で学習することになり、継続的に、知的財産教育を導入することができるようになった。特定の学科や生徒のみが、知的財産教育の学習に陥ることがないように、全校生徒に対して、バランス良く、知財マインドを持ち、実際に触れる機会を作るように様々な仕掛けをしていこうと考えた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> ・「知的財産の基礎」・「意匠権」・「商標権」の学習を、標準テキストを用いて授業を実施。 ・知的財産教育の浸透・事前学習を実施。(広報誌や朝読書等を利用し、知財関連の教材の提供)(写真図表掲載欄⑧) ・相生産業高等学校(兵庫県)・蒲生高等学校(鹿児島県)での開発商品販売。 ・第26回全国産業教育フェア石川大会への出展・参加。(写真図表掲載欄⑥) ・デザインパテントコンテストに出展。(課題研究「作品制作」)、1年「マーケティング」の授業を活用し、校内デザインパテントコンテストを実施。 ・鹿児島県高等学校生徒商業研究発表大会において「課題研究」の取組を発表。今年度は昨年まで継続している「蕨島地区活性化事業(Warabishima Activation Project)」の発表で優秀賞。同時に出水市の外国人の観光や流入についての「インバウンド(inbound)」の取組を出水市や大学と連携して実施している。今年度、地元在住の外国人のアドバイスや、市のシティーセールス課の協力もあり、台湾との交流(修学旅行)を利用した、イベント冊子の作成を実施してみた。(写真図表掲載欄①②③⑤⑫) ・「商品開発」の継続的实施。地元企業の活性化と商品開発の学習の主眼に、今年度は、地元企業(赤鷄農業協同組合)と協力を頂き、「赤鷄のオレンジ煮」の試作・開発・販売までを手掛けた。(写真図表掲載欄⑧) ・2年「商品開発」の授業で、出水市「ふるさと納税返礼品」のデザイン・内容の作成。 ・「広告と販売促進」の授業にて、出水市菓子店とのコラボ商品「鶴恋苺(つるこい)」の販売活動の実施。(写真図表掲載欄⑨) ・本校にて知的財産教育講演会の実施。(岐阜県大垣養老高等学校 中野先生)知的財産

	<p>の意義や先進的な取組を行っている現状に於いての知識を理解する場を持った。 (写真図表掲載欄⑦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校で実施している「出前授業」にて、小中学生を対象に知的財産のプレゼンや開発キャラクターのグッズ(ラベル)のプレゼントを実施。(写真図表掲載欄①③⑤⑫) ・「商品開発」にて外部講師(知的財産推進校講師・地元企業経営者など)を招いての講演会や、アクティブラーニングを活用した学習会の実施。(写真図表掲載欄⑧) ・「マーケティング」において「知的財産研修会」を実施。実際の企業側の考えを通して知財教育の意義や、商品開発・製造・販売の進め方、企業におけるマーケティング等について具体的な情報提供をいただき、生徒の知的財産教育推進を図る機会とすることができた。また、予算の関係上、出来なかった学年・クラスについては、知財担当で、資料等を作り、報告学習会を実施した。(写真図表掲載欄⑪) ・出水商業デパートにおける広告の在り方と商品の販売。 ・地域イベントへの参加や地域情報・活動情報の発信として、フリーペーパー「I am」を作成し、出水駅、ふるさと特産館、市役所、ツル観測センター、クレインパーク等に配布。(写真図表掲載欄②⑫)
<p>成 果</p>	<p>全般的に前年度の取組を継続的に取り組むことができたが、今年度は、より今までの知的財産教育活動を更に深化させることと、生徒に具体的・実践的に体験させることを目的に様々な、取り組みを行ってきた。上記にあるもので、今年度から新たに取り組んでいることの中に、「課題研究(調査研究)」のインバウンドへの取組が挙げられる。これは、台湾への修学旅行や出水市の政策ともリンクしており、今後も継続していく計画である。</p> <p>また、INPIT様の配慮で、「全国産業教育フェア石川大会」に参加させていただいたことは、とても有り難かった。この出展については、他校の内容と比較しても本校の取組が、まだまだ未熟であると感じたが、生徒は元より、職員側への経験が自信になってきていると思う。これからも指導者育成に力を注いでいきたいと改めて実感している。</p> <p>同じく、1年商業科で実施した「知的財産研修会」については、交通費などの経費の負担や学習効果、知的財産教育の観点から企業側がどこまで教えていただけなのか未知数であったが、学校側との事前の打ち合わせと、企業側の準備のおかげで、大変有意義なものになった。生徒側からも企業側の考え方や、実際を見られたことで、生徒の発想力や認識が広がったようである。</p> <p>商品開発においても、開発商品「赤鶏のオレンジ煮」を作る過程で、商標についてIPDLで検索を行うなど教諭が研修で学んだ内容を生徒に還元できたことなどは、本事業に参加した成果であると思う。</p> <p>しかし、県外の知的財産教育の推進校に比べると、まだまだ取組内容が充実しているとは言えないので、来年度はさらに内容を充実させたい。</p> <p>また、教員の指導者育成については、一部の職員のみではなく、若手・中堅を中心に様々な研修や、大会等に参加させることによって経験を積ませたいと考えている。そういった経験の財産が生徒に還元され、知的財産に理解のある生徒の育成に繋がればよいと考えている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

学校番号	商 1 4		
学校名	鹿児島県立串良商業高等学校	担当教員/ 教授名	吉福知明
学校情報	所在地：鹿児島県鹿屋市串良町岡崎 2496 番地 1 TEL：0994-63-2533、FAX：0994-63-2534、URL：www.minc.ne.jp/kushirashoko/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	地域社会と連携した取り組みを通して知的財産権の理解，創造力・実践力・活用力を身に付けた人材の育成。
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <p>○地域企業や小・中学校と連携し知的財産教育を実践し，人材の育成を図る。</p> <p>○各種コンテストに応募してアイデアを生み出すきっかけ作りをする。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>地元志向でありながら高校卒業後，進学や就職で地元に残らない子もいれば，残れない子もいる。どこにいてもアイデア次第で成功するチャンスはいくらでもあることに気づき，創造力を育てたい。また，資格取得だけではなく，創造力・実践力・活用力を身につけることで，どこへ行っても通用する人材を育てたい。さらに，地域社会と連携する中で地域の良さを再確認し，新たな発見をして地元愛を育てたい。また，学校で取り組んでいる事を発信することにより，地域との協力関係を築き，進路選択のきっかけになって欲しい。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>6月 弁理士による講演会・職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権・アイデアの発想・組み合わせ方，具体的な取り組みができた。 ・職員研修を通して，授業の中で日常的に話題にできることを学ぶ。 <p>7月 商品開発の中でラインスタンプを考え，「ボキレンジャー」というキャラクターの第2弾を考案。コピーライトと，寄付行為や赤十字を使用できないことを学ぶ。</p> <p>7月 フードグランプリ参加。ラベルの決まり事を学ぶ。</p> <p>8月 地域別交流会3名参加。アイデア発想のワークショップを体験する。</p> <p>7月～9月 デザインパテントコンテスト</p> <p>校内デザインパテントコンテストを実施(161件)本選応募(9件)。</p> <p>11月～12月 商標権と商標登録の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁理士を招き，講演会を実施。商標登録についての学習。 知財についてのディスカッション・アイデア発想ワークショップを実施した。 ・ネットショッピングモール「はすねす」参加を目指し，注意点等を学ぶ。 <p>10月 各種コンテストに応募。(なるほどアイデアコンテスト(大分大学)など)</p> <p>12月 商品開発アイデア検討(新簿記カルタ・ふりかけ)</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動をとおして，知的財産について知る機会が増えた。 ・各種コンテストへ初応募多数。自分のアイデアを発信する機会ができた。 ・フードグランプリ特別賞受賞。また，原材料の表示の細かい規定も学ぶ。 ・講演会で商標・特許等について学ぶ。ロゴマークを考案。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



5月GOGO若葉フェスタ販売活動



5月農研祭 「ぐりぶー」使用許可を取る。



6月 知的財産講演会



6月 職員研修



8月 フードグランプリ 特別賞



8月 中学生1日体験入学(知的財産学習)



11月 商品開発(ふりかけ)



12月 特許権・商標権学習

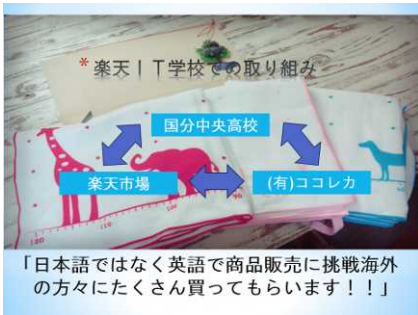
学校番号	商 1 5		
学校名	鹿児島県霧島市立国分中央高等学校	担当教員/ 教授名	黒葛川 健人
学校情報	所在地：鹿児島県霧島市国分中央 1 丁目 10 番 1 号 TEL：0995-46-1535 FAX：0995-46-1536 URL：http://www.mct.ne.jp/users/kokubu-chuo/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	学校の特徴を生かした知的財産に寄与する人材育成
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <p>学校の特徴を生かした中での地域連携・情報発信といった取組を進展させ、知的財産を活用し創造力、実践力、活用力を育成する</p> <p>(取組の背景)</p> <p>地元霧島市や観光協会さらには都築学園第一工業大学の協力のもと、地域の活性化等をめざし高校生独自の発想取組により商品開発並びにプロモーションを通して知的財産教育の定着を目指すこととなった。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>商標権、意匠権、不正競争防止法などを踏まえつつ商品化権についても学び、地元企業や大学との連携を通し商品開発をすることで知的財産教育等の基礎・基本の確立と深化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の特産品である「霧島茶」について「生育」・「収穫」の段階から高校生が携わることで親近感を持ち、きりしま茶ブランド協会の協力をいただきながら原料の加工商品化までの過程を学んだ。 ・地元霧島市の観光協会等の協力で、高校生の視点に立った事例分析の統計グラフにおいて学校での取り組みをまとめた。 ・民間企業 (楽天) に外部講師を依頼し、地元企業のココレカ (子供服など販売) の広告宣伝を手掛けて、インターネットを活用した海外への商品販売を企画立案して販売した。 ・ビジネス情報科における学科紹介 PR 動画をはじめ、商品開発や IT ショップにおける活動の取り組み動画を第一工業大学の協力の下完成させアップした。
成 果	<p>「地元の特産品を開発したい」という行政や民間企業の要望もあり、現在はペットボトルのお茶の作成 (パッケージ作成・販路の考察含む) を行っている途中である。今後は、商品の販売を通して問題点の洗い出しを行い修正を行っていく予定である。</p> <p>地元の大学との高大連携を活かして動画製作に関する指導を受けながら、ビジネス情報科の PR 動画を作成した。この活動を通して、どうすれば見る側に興味を持ってもらえるかを試行錯誤し、PR 活動を行った。年度末に向けて検証作業を通して、知的財産教育の観点から生徒自身の手でどのような課題があるかを整理していく。</p> <p>地元の業者と連携し、新生児へのプレゼントを意識した商品を作成する活動を通して企画・立案するにあたってターゲットにする購入者に何を訴えるか、商品購入者に満足してもらえるかなどを考え国内だけではなく、海外の消費者向けに英語による広報活動を行ってきた。11月中旬より実際に販売を開始しているが、12月中旬までの約1か月の間にどれくらい販売されたかを集約し、1月下旬までの販売期間に、より実績をあげられるよう再検証を行っているところである。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



楽天と地元企業との連携による商品販売の事例



PRサイトを立ち上げ情報発信



商品開発でのお茶の学習



おもてなしの実習風景

学校番号	商 1 6		
学校名	鹿児島県立屋久島高等学校	担当教員/ 教授名	俣川 祐輝
学校情報	所在地：鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 2 4 7 9 - 1 TEL:0997-42-0013 FAX:0997-42-0620 URL:http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/yakushima/top.htm		

ねらい (○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="checkbox"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c) 課題解決（創造性開発・課題研究・商品開発等） <input checked="" type="checkbox"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="checkbox"/> e) 人材育成（学習意欲向上、意識変化等） <input type="checkbox"/> f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	<input type="checkbox"/> a) 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> b) 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> c) 商標 <input checked="" type="checkbox"/> d) 著作権 <input type="checkbox"/> e) 種苗 <input type="checkbox"/> f) その他（ ）

タイトル 目的・目標要約	屋久島の観光産業活性化に向けた活動を通して、知的財産権を理解する。
目的・目標 ・取組の背景	<p>（目的・目標） 学習する過程で創造力や、プレゼンテーション能力を高め、将来産業界で活躍できる人材を育成する。離島のため情報不足になりがちなところを、外部講師の活用や研修会報告会の場での積極的な情報交換で補うようにする。</p> <p>（取組の背景） 屋久島は世界自然遺産に登録されているが、観光客数は減少する一方である。産業の中心である観光業を活性化し、観光客数を増加させ、また活気のある島とするため、地域と連携した活動を行いたい。知的財産権を学習し、近いうちに権利の取得も考えている。屋久島のブランド化を図り、付加価値の高い観光地として確立できるような取組を行う。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産を学習する意義と手順の確認 ・ 会議法の学習 ・ 図書を活用したレポート学習 ・ 地域研究・調査 ・ 商品の立案と詳細設計 ・ 商標登録について学習 ・ パッケージの考案 ・ 試作会の実施 ・ 取材活動
成 果	<p>本年度は知財学習の2年目である。教員も生徒も昨年と比べ、関心意欲が高まった。昨年の経験を踏まえ試行錯誤して取り組んできたが、生徒たちの意欲的な表情を見ると、取り組んできた内容の成果が十分にあったことを確信できた。</p> <p>屋久島は世界自然遺産の島であり観光産業が中心であるが、地域ブランドの商品がほとんどないのが現状である。活動を通して生徒は屋久島の課題を知ることが出来たのではないかと。また、昨年から高校生が積極的に活動している姿を見た地域の方々から、意見やアドバイスを頂くようになり、今後の活動の参考にもなった。生徒はこの事業に取り組んでいることに胸を張るようになり、それぞれの活動に自信を持つようになってきている。来年度以降も取組を継続し、さらに活動を充実させることで、屋久島の産業活性化に貢献していきたい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 校舎写真



(写真2) 会議法の学習



(写真3) 商品開発試作会



(写真4) 図書を活用したレポート学習



(写真5) 接遇マナー教室 (取材活動)



(写真6) 産業体験学習 (地域研究)

(特記すべき取組と成果) 本校開催、知的財産権に関する講演会の取組について

これまで地域と協働で観光を軸にした地域活性化についての取組を行ってきたが、二年目である今年度は外部講師による研修を実施した。屋久島高校卒業生でもあるヒューマンアーティストのGETTAMAN (ゲッターマン) こと竹之内敏さんを講師として招き、生徒たちはアイデアを形にすることの大切さや、成果を出すことの難しさや尊さを知ることができた。GETTAMANはアイデアが豊富で、それを形にして活躍しているところは、まさに創造力から利益を生み出すことを実現していると言える。本校の卒業生でもあるということで生徒たちは興味関心を持って講演に参加していた。モノを作ることがすべてではなく、利益を得る方法は沢山あることを学ぶことができた。

今回の講演会で、知的財産についての知識を深めることが出来たことに加え、創造的な能力を育成することが出来た。



学校番号	商 1 7		
学校名	鹿児島県立奄美高等学校	担当教員/ 教授名	小宮 勇作
学校情報	所在地：鹿児島県奄美市名瀬古田町 1 - 1 TEL：0997-52-6121、FAX：0997-52-6122、URL：http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/amami/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	P B商品商標登録や製品製作，世界自然遺産登録のPR活動やロゴ作成で知財学習を展開
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標) 地方創生を担う人材育成を推進するため各学科で以下の目的・目標を設定した。●商業科は，前年度の取組で誕生したプライベートブランド「スウィートネスハイスクール」の新商品開発を地元企業と連携して行い，地場産業ならびに商標権および意匠権についての理解を深める。また，企画商品と合わせて奄美大島の各地でPR活動を行う。●情報処理科は，「スウィートネスハイスクール」ブランディングのためのコンテンツを制作し，各地で実施するPR活動やSNSによる情報発信に活用する。同時に，本校「創立100周年記念黒糖焼酎デザインラベル」の制作を通じて，商標権と奄美地場（黒糖）産業の理解を深める。●機械電気科は，取組から生まれた技術をパテントコンテストに応募し，特許権の理解を深める。</p> <p>(取組の背景) 地方創生を担うためには，地域が抱える諸問題を認識し，何がしかの目的や課題を設定し，解決しようとするマインドや方法を知ることが大切であると考えます。このような問題意識のもと，平成27年度から行われている大学科商業（商業科・情報処理科）と工業（機械電気科）による開発事業の取組【離島振興のためのPB商品開発・製品製作への知的財産教育の導入】から生まれた企画商品や技術を継続的に実践研究することで，知財教育拡充を目指そうと設定したのが，上記の平成28年度【目的・目標】でもあります。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>大学科商業（商業科・情報処理科）は，各学年の専門科目【1年生「ビジネス基礎」，2年生「情報処理」，3年生「総合実践」および「課題研究」】の中で，地方創生に貢献する「ビジネスプラン策定ならびにコンテストへの応募活動」や「各種研究発表大会に参加するための実践研究活動」に取り組む過程で，知的財産権制度に関する知識や諸発想法など，知財に関する導入定着指導を行ってきました。また，前年度に引き続き，弁理士の先生を招聘し「知的財産のつくり方と楽しさ」と題したセミナーを1年生のみに，地元企業の方を招聘した商品開発やブランディングなどの「特別講座」を3年生に実施し，【商標登録手続き】や，企画商品をPRするためのコンテンツを制作するなど，継続的，発展的な活動が行えたと考えています。大学科工業（機械電気科）は，取組の中心を【工業技術研究部】が担い，「各種競技大会参加のための製作活動」と，その過程で生まれた技術を活用し【パテントコンテストのチャレンジ指導】などを行いました。</p>
成 果	<p>開発事業予算を活用することで，学校内教諭だけの指導では，実現できない学習機会を多く設定することが可能となり，生徒達がより広い視点で知財学習を主体的に進められた成果が，様々な活動結果に繋がりました。具体的には，①企画開発した商品が，全国最大級の高校生商品開発コンテスト【商業高校フードグランプリで最高賞「大賞」受賞】したことをはじめ，各種大会で高い評価を得られ</p>

たことや、②取組で誕生したネーミングや技術を権利化するために【商標登録出願や特許コンテストに応募するチャレンジ指導】が行われていることなどです。大会等で結果を出せていること、商標権や特許権の登録申請に挑戦する活動ができてきていることは、生徒達の知財に関する意識が向上している証拠であり、知財学習の成果であると考えています。これら活動は、継続性と発展性があり、引き続き知財教育を拡充させることで更なる成果につながると考えています。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>

【J-PlatPat 活用による商標調査】



【商標登録願と申請区分の活用例】

【書類名】 商標登録願
 【整理番号】 01
 【提出日】 平成28年5月6日
 【あて先】 特許庁長官 殿
 【商標登録を受けようとする商標】
 スウィートネスハイスクール
 【標準文字】
 【指定商品又は指定役務並びに商品及び役務の区分】
 【第30類】
 【指定商品（指定役務）】 菓子
 【第33類】
 【指定商品（指定役務）】 焼酎

「標準文字商標」として申請
 アイスクリームは第30類「菓子」の概念に含まれる ※商標活用イメージ→「スウィートネスハイスクール（〇〇アイス）」

奄美果実のリキュール類は第33類「焼酎」の概念に含まれる ※商標活用イメージ→「スウィートネスハイスクール（〇〇のお酒）」

【特記すべき取組と成果】 開発事業の取組から誕生した企画商品が国内最大級のコンテストで最高賞を受賞

【商業高校フードグランプリ2016（伊藤忠食品株式会社主催）で、企画商品「スウィートネスハイスクール グァバアイス」が本選大会に進出し、「大賞」と大会来場者である小売業者のバイヤーの投票で決定する「来場者賞」とをダブル受賞した。毎日新聞、南日本新聞、日本教育新聞、他地元紙などの記事にも掲載された。】

Contamination Proof Pump
 ▶ 灯油とガソリンの液体比重の違いに着目
 ▶ 中間比重(0.78)のフロートを封入
 ▶ 灯油流入時は浮揚して開柱
 ▶ ガソリン流入時は沈下して閉柱

誤給油を防止できないか??

素 材	POM
設定比重	0.78

（特記すべき取組と成果） 開発事業の取組から誕生した企画商品が国内最大級のコンテストで最高賞を受賞【商業高校フードグランプリ2016（伊藤忠食品株式会社主催）で、企画商品「スウィートネスハイスクール グァバアイス」が本選大会に進出し、「大賞」と大会来場者である小売業者のバイヤーの投票で決定する「来場者賞」とをダブル受賞した。毎日新聞、南日本新聞、日本教育新聞、他地元紙などの記事にも掲載された。】



※写真内容左から（展示・商品説明・試食提供⇒商品販売戦略プレゼン⇒表彰式直後⇒本選大会進出校全体）